

ICT活用スキルについて

教員のICT活用スキル向上について

■ 教員のICT活用スキルチェックリストに関する調査(令和8年6月)結果の概要 ■

校種	全ての項目で「できる」「ややできる」と評価した教員の割合
小学校	87.52% (85.06%)
中学校	85.20% (80.00%)



※（ ）内は、昨年度の割合

本県では、全ての項目で「できる」「ややできる」と評価した教員の割合が、小・中学校とも8割を超えているとともに、昨年度より小学校で2ポイント以上、中学校で5ポイント以上上昇しており、ICTの活用が定着しつつあります。

また、週に1回以上「校務の負担を軽減するために、AIを活用している」教員は約7割、「教育データを分析して、授業改善又は個別指導に活かしている」教員は6割以上おり、昨年度から大きく上昇しています。引き続き積極的な活用をお願いします。愛媛県総合教育センターのHPには、教員が身に付けるべきICT活用研修資料が掲載されていますので、自己研修等に御活用ください。

【URL：https://center.esnet.ed.jp/ict_kensyu】

【参考】ICTの活用の頻度について（週に1回以上の割合）

項目	小学校	中学校
校務の負担を軽減するために、AIを活用している	72.23% (45.84%)	69.36% (45.66%)
教育データを分析して、授業改善又は個別指導に活かしている	69.73% (57.69%)	62.72% (50.03%)

※（ ）内は、昨年度の割合

デジタル・シティズンシップ育成アプリについて



今年1月に運用を開始したネットトラブルを疑似体験できる本アプリにおいて、5月から1か月の1人当たりの利用上限を3回から12回に増加させました。その結果、活用が広がり、利用回数が上昇しています（7月下旬と8月は夏休みのため回数が下がっています）。

本アプリに搭載されている生成AIは、情報リテラシーに関する豊富な知識を備えており、適切な回答を提供してくれます。今後も以下のような場面をはじめ、積極的な活用をお願いいたします。

- 教員がテーマ（部屋）を指定し、全員で一斉に実施する。その後、AIとのやり取りやフィードバックについて、ペアや班で確認し合い、学びを深める。
- AIからのフィードバックにより疑似体験を振り返り、自分の考えの良い点や改善点を把握した上で、同じテーマを定期的に行い、意識の向上を図る。
- 家庭で保護者とともに疑似体験を行い、デジタル・シティズンシップの重要性を共有し、ネットトラブルへの対応力を強化する。